

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	大阪経済大学		
② 大学等の設置者	学校法人大阪経済大学	③ 設置形態	私立大学
④ 所在地	大阪府大阪市東淀川区大隅2-2-8		
⑤ 申請するプログラム名称	数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)		
⑥ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤)	146	人
	(非常勤)	366	人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		2	人
⑩ 全学部・学科の入学定員	1,645		人
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)		総数	6,966
	1年次	1,702	人
	2年次	1,608	人
	3年次	1,605	人
	4年次	2,051	人
	5年次	—	人
	6年次	—	人
⑫ プログラムの運営責任者	(責任者名)	草薙信照	(役職名)
			情報社会学部長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	全学共通教育委員会		
	(責任者名)	山本正	(役職名)
			全学共通教育委員長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	全学共通教育委員会		
	(責任者名)	山本正	(役職名)
			全学共通教育委員長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	企画部	担当者名	矢島克也
E-mail	jks@osaka-ue.ac.jp	電話番号	06-6328-2431

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

プログラムを構成する科目「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(2単位)を修得すること。
(令和4年度からは「データサイエンス概論」(2単位)に科目名が変更されている。)

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
共通特殊講義(データサイエンス概論)	2	○	全学開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
共通特殊講義(データサイエンス概論)	2	○	全学開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
共通特殊講義(データサイエンス概論)	2	○	全学開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
共通特殊講義(データサイエンス概論)	2	○	全学開講	○	○						

⑦「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
共通特殊講義(データサイエンス概論)	2	○	全学開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・AI、Society5.0「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(2回目)
	1-6	・AI最新技術の活用例「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・構造化データ、非構造化データ「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(3回目)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(2回目)

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	1-4	・非構造化データ処理「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(3回目)
	1-5	・データサイエンスのサイクル「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(8回目)
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	3-1	・個人情報保護「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(4回目)
	3-2	・情報セキュリティ「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(4回目)
<p>(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-1	・データの分布と代表値「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(10回目) ・相関と因果「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(12回目)
	2-2	・データ表現「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(11回目、13回目)
	2-3	・データの集計「共通特殊講義(データサイエンス概論)」(5回目、6回目)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・現代社会におけるデータサイエンス・AIの現状や役割について理解し、説明することができる。
- ・データサイエンスやAIを利活用する際の留意事項(個人情報、データ倫理など)を理解し、説明することができる。
- ・目的に沿って必要なデータを集め、適切に加工して分析し、グラフや図解を駆使して自分の考えを表現することができる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

https://www.osaka-ue.ac.jp/education/data_sci_edu.html

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経済学部	600	2400	26	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	1%
経営学部第1部	510	2040	15	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	1%
情報社会学部	250	1000	21	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	2%
人間科学部	175	700	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0%
経営学部第2部	110	480	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0%
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
合計	1645	6620	66	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	66	1%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

全学共通教育委員会に関する規程

② 体制の目的

当プログラムは全学生を対象として開講することから、全学共通科目として設定しており、全学共通委員会の体制下で改善・進化をはかる。

③ 具体的な構成員

全学共通教育委員長(副学長) 山本正 学長補佐 遠原智文 経済学部長 森詩恵 経営学部長 藤澤宏樹 情報社会学部長 草薙信照 人間科学部長 半田裕 教務部長 北川健
--

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	1%	令和4年度予定	2%	令和5年度予定	4%
令和6年度予定	6%	令和7年度予定	8%	収容定員(名)	6,620

具体的な計画

令和3年度にはパイロットケースとして2コマ(秋学期2コマ、全て対面形式)開講していたが、一定の履修ニーズが見込めたことから、令和4年度には全学共通科目のカリキュラムとして「データサイエンスと数理」の区分を新設した上で、4コマ(春学期2コマ・秋学期2コマ、全て対面形式)開講することにした。令和5年度以降も開講コマ数を増やしていくと同時に、学内広報(新入生への講義やオリエンテーションを通じた周知、履修登録前の学生向けポータルサイト(KVC)での周知、大学公式ウェブサイトを通じたデータサイエンス教育に関する広報等)を積極的に実施し、当プログラム科目の履修者数・履修率を向上させる。加えて、履修者数の大幅な増加を目指して、オンライン形式での開講についても検討していく。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

全学共通教育委員会において、当プログラム科目への学生の受講希望状況を注視し、受講を希望する全ての学生が履修登録できるよう開講コマ数を調整する予定である。さらに、履修者数の大幅な増加に向けて、オンライン形式での開講や一部カリキュラムにおける必修化についても検討していく。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

④のとおり、令和4年度には、学生に対して当プログラム科目の履修を促す情報提供を実施し、一定の効果をあげている(春学期開講科目についてはほぼ定員充足の状態)。今後は、大学公式ウェブサイトにも立ち上げたデータサイエンス教育の特集ページを充実させたり、入学案内にもデータサイエンス教育に関する記事を記載することで、在学生に加えて、今後の入学予定者への訴求も高めていく。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

当プログラム科目は、45名定員の少人数授業で、1名の教員と2名の学生SAにより授業運営を行っている。授業内容の理解を深めるために、異なる学部の学生同士で意見や考えを共有するアクティブ・ラーニングの手法が用いられている。また、自分が普段使い慣れたPCを教室に必携してもらい、自分で手を動かしてデータを加工・分析したり、可視化することを重要視しており、授業に参加した学生全員がデータサイエンスを楽しく学び、学期途中で脱落せずに、最後まで充実感を持って、学び通せるように工夫している。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

当プログラム科目の受講生は、授業時間内であれば、担当教員に加えて、2名の学生SAも教室内を巡回するようにしているので随時、指導を受けたり、分からない箇所について質問ができる。また、授業時間外であれば、電子メールやMicrosoft Teamsによって、いつでも授業内容についての不明点等を質問し、授業担当教員から速やかに回答を得られるような体制となっている。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>・履修データを分析することにより、学部・学科等の属性や関連科目の履修登録状況を把握し、開講時間帯の調整を行った。今後も分析を継続し、より多くの学生が当プログラム科目を履修できるように対応する予定である。</p> <p>・当プログラム科目に対する授業評価アンケートを実施し、担当教員による自己点検・評価を行った。その内容を全学共通教育委員会で確認し、次年度の授業計画に反映させ、PDCAサイクルを回している。また、当プログラム科目内だけの閉じたサイクル内での点検・評価に終始するのではなく、各学部のデータサイエンスやAIを専門とする教員とも連携し、各学部の専門分野との接続という観点での点検・評価も実施する予定である。</p>
学修成果	<p>・本学では、次の3点を到達目標として定めている。</p> <p>①現代社会におけるデータサイエンス・AIの現状や役割について理解し、説明できる。</p> <p>②データサイエンスやAIを利活用する際の留意事項(個人情報、データ倫理など)を理解し、説明できる。</p> <p>③目的に沿って必要なデータを集め、適切に加工して分析し、グラフや図解を駆使して自分の考えを表現できる。</p> <p>上記の達成度は、学期途中や学期末の課題等に対する総合評価(100点満点)により把握することができる。</p> <p>・今後、当プログラム科目履修後に受講者がさらに他のデータサイエンス系科目に関心を持つようになったのか等もアンケート調査し、結果の推移を観察する予定である。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の理解度</p>	<p>受講生全員に対して、当プログラム科目独自の授業評価アンケートを実施し分析した。当プログラム科目に対するアンケートの有効回答数56件の内訳としては、「理解できた」24件(42.3%)、「やや理解できた」28件(50.0%)、「やや理解できなかった」3件(5.4%)、「理解できなかった」0件(0.0%)であり、9割以上の学生が概ね授業内容を理解しているといえる。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>・受講生の授業評価アンケートを確認したところ、ポジティブなコメントが多数あったことから、当プログラム科目をまだ履修していない他の学生への推奨度は十分に高いといえる。他方で、パイロットケースとして、普段受講生が利用している端末を持参させる形(BYOD:Bring Your Own Device)で実施したため、パソコンの利用など履修環境に対する要望のコメントもあった点については、今後検討し改善する予定である。</p> <p>・今後は当プログラム科目に対するアンケート項目の見直しを行い、他の学生への推奨度に関する項目を設定して、継続的にデータ収集と分析を行う予定である。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>令和3年度にはパイロットケースとして2コマ(秋学期2コマ、全て対面形式)開講していたが、一定の履修ニーズが見込めたことから、令和4年度には全学共通科目のカリキュラムとして「データサイエンスと数理」の区分を新設し、4コマ(春学期2コマ・秋学期2コマ、全て対面形式)開講することとなった。また、履修者数、履修率、単位取得率の向上に向けては、オンライン授業の実施検討や広報面での改善を進めて行く。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>当プログラム科目は令和3年度より開講したため、当プログラム科目を履修し、単位を修得して卒業した学生はいない。今後、この科目や他のデータサイエンス系科目の単位を修得して卒業した学生の進路・採用状況等を把握する仕組みを設ける予定である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>当プログラム科目に関して、本学の協力企業(通信大手企業)に対して、講義内容やテキスト等を説明し、意見を求めた。詳細は以下参照。</p> <p>「広く普及しているExcel で手を動かしてインタラクティブな学習ができる構成になっているところも良いと思います。実際のビジネスの現場において難解な統計学の理論が必要になるケースは少なく、基礎的なデータの可視化(グラフやチャート作成など)や、可視化されたデータを正しく解釈することの方が重要であり、本講座はそれらの能力をバランスよく習得できる実用性の高いプログラムになっていると感じました。 (通信系企業・データサイエンス系部署グループリーダー)」</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>・「学ぶ楽しさ」を感じてもらうために、少人数の定員(45名)を設定している。さらに、異なる学部の学生同士で考えを共有するアクティブ・ラーニングの手法を用いて、特に、自分で手を動かしてデータを加工・分析・可視化することを重要視し、学生全員がデータサイエンスを最後まで充実感を持って、学び通せるように工夫している。</p> <p>・「学ぶことの意義」を理解してもらうために、授業内で、データサイエンスが現在進行中の社会変化に深く寄与しており、学生達の生活と密接に結びついているということや社会で使われているデータやその活用領域が非常に広範囲であることについて、最新の事例紹介も交えて説明している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>当プログラム科目では、統計学をはじめとするデータサイエンスで利用される手法を幅広く学ぶが、それぞれの手法の数理的な理解よりも、どのような場面で分析結果が活用されるのかを学ぶことを主目的としており、高校数学の知識を前提としない学びやすい内容になっている。さらに、全学共通科目に位置付けられているが、ここで学んだ内容を各学部の専門分野に活かすことで、さらなる学びに接続して欲しいという狙いも持って、授業内容が設計されている。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

https://www.osaka-ue.ac.jp/education/data_sci_edu.html

科目名	科学技術のデータサイエンス 共通特殊講義（データサイエンス概論） Introduction to Data Science				
担当教員(所属)	草 薙 信 照(学部) / かながら 乃 莉				
授業科目区分	全学共通科目	時間割所属	学部		
時間割コード	44282	確定状態	確定	単位数	2単位
開講学期曜限	2021年度 秋学期 木4				
教室	B 4 1				
連絡方法	大学のE-Mail（下記）宛てに連絡してください。				
E-MAILアドレス	kusanagi@osaka-ue.ac.jp				
研究室	G-701（G館7階）				
オフィスアワー	月曜6限としますが、必ずE-Mail でアポを取ってください。				
担当教員一覧(所属)	草 薙 信 照(学部), 中山 まゆみ(学部)				
授業内容	更新日	2021/10/12			
<p>「データサイエンス概論」は、いますべての大学生に求められる数理・データサイエンス・AIの全体像を把握することを目的としています。現代社会における仕事や生活の中で、AIやデータサイエンスがどのように利用されているか、どのような活用方法があるか、そしてどのような課題があるのかを学びます。</p> <p>加えて、統計学をはじめとするデータサイエンスで利用される手法を幅広く学びます。それぞれの手法の数理的な理解よりも、どのような場面で利用され、分析結果がどのように活用されるのかを学ぶことを主目的としており、高校数学の知識を前提としない学びやすい内容になっています。</p> <p>なお、この科目は共通科目に位置付けられていますが、ここで学んだ内容を各学部の専門分野に活かすことで、さらなる学びにつなげてください。</p> <p>【キーワード】 第4次産業革命, Society 5.0, 数理, データサイエンス, AI（人工知能）, IoT, ビッグデータ, データの利活用, 実データ（政府統計, 企業統計）, 個人情報, データ倫理</p>					
授業方法					
アクティブラーニング手法を取り入れた実践的・参加型授業を実施して、総合的な知識の獲得とともに、思考力と問題解決能力の向上を図ります。					
【講義】実社会の事例やデータを題材として参加型授業を実施					
【演習】個人ワークとグループワークを組み合わせた演習を実施					
到達目標					
<p>【到達目標について】 データサイエンスの全体像を把握するうえで必要となる知識と技術の修得；具体的には以下を到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代社会におけるデータサイエンスやAIの現状や役割について理解し、説明することができる ・データサイエンスやAIを利活用する際の留意事項（個人情報、データ倫理など）について理解し、説明することができる ・目的に沿って必要なデータを集め、適切に加工して分析し、グラフや図解を駆使して自分の考えを表現することができる 					
評価方法					
平常点評価：70%（個人課題やグループ課題の成果，レポートの内容，授業への参加度等を元に総合的に判断する。詳細は授業中に随時説明する。）					
最終課題：30%（最終課題（14回目）の内容）					
テキスト					
必要に応じて指示する。					
参考文献					
学生への要望					
<p>受講に際してはノート型パソコン必携とします。できるだけ、本学で推奨している仕様（OS：Windows10，CPU：Intel Core i5相当以上，メモリ：8GB以上）を満たすノート型パソコンを用意してください。</p> <p>不安がある場合は、教務部または担当教員に問い合わせ確認してください。</p>					

年間（学期）計画				
No	主題	内容	自主学習	備考
1	オリエンテーション： データサイエンスとは	・授業の目的と到達点 ・受講のルールと成績評価 ・データサイエンスとは	データサイエンスとは何かを考 えておく （自主学習の目安は4時間）	
2	社会におけるデータ・AI利 活用	・Society5.0 ・AIと社会の結びつき ・AIの活用領域 ・AI技術活用事例	AIの活用事例を調べておく （自主学習の目安は4時間）	
3	社会におけるデータ・AI利 活用	・言語処理、動画処理、音楽処理の比構 造化データ、構造化データ ・AI技術が引き起こす社会の課題	情報化社会の課題点を調べてお く （自主学習の目安は4時間）	
4	データ・AI利活用留意事項	・個人情報保護 ・情報とセキュリティ ・データの安全性を脅かすもの ・技術的対策 ・データの捏造、改ざん、盗用、プライ バシー保護	インターネットを利用する上で 気を付けていること （自主学習の目安は4時間）	
5	データリテラシー 様々な数式と基本関数	・数式の基本 ・関数の基本	Excelの基本操作 （自主学習の目安は4時間）	
6	データリテラシー 応用関数とデータベース	・関数の応用 ・データベース機能 ・ピボットテーブル	Excelの基本操作 （自主学習の目安は4時間）	
7	データリテラシー グラフ表現と分析	・グラフ作成の基礎 ・ピボットグラフ ・グラフ表現	Excelの基本操作 （自主学習の目安は4時間）	
8	データリテラシー 統計のプロセスを知る	・テーマ決め、データ収集、整理 ・情報の読み取り ・表現	Excelの基本操作 （自主学習の目安は4時間）	
9	データリテラシー データ収集実習	・統計データベースの活用 ・論文データベースの活用 ・図書館データベースの活用	サーチエンジンの使用方法 （自主学習の目安は4時間）	
10	データリテラシー 統計活用事例-1	・顧客分析実習 ・平均値、代表値、中央値、外れ値 ・ヒストグラム	Excelの基本操作 （自主学習の目安は4時間）	
11	データリテラシー 統計活用事例-2	・天気と売り上げの関係から効果的な販 売、仕入れ計画を立てる ・散布図	Excelの基本操作 （自主学習の目安は4時間）	
12	データリテラシー 統計活用事例-3	・天気と売り上げの関係から効果的な販 売、仕入れ計画を立てる ・相関関係、近似直線	Excelの基本操作 （自主学習の目安は4時間）	
13	データリテラシー データ分析実習-1	・人口統計を活用して都市計画を考える （グループワーク） ・伝わるレポートの作成方法	Excelの基本操作 Wordの基本操作 （自主学習の目安は4時間）	
14	データリテラシー 統計のまとめと最終課題	・最終統計課題（グループワーク）	課題作成 （自主学習の目安は4時間）	
15	データリテラシー 最終課題の発表	・グループごとに調べて分かった内容を 発表（グループワーク）	発表準備 （自主学習の目安は4時間）	
ホームページ				

備考 1
授業内容で質問がある時は 授業担当：中山まゆみ vh21022@osaka-ue.ac.jp までメールで問い合わせてください。
備考 2

(2019~2021年度入学生)
全学共通科目[外国語科目・広域科目]

分野	授業科目	単位	配当年次	分野	授業科目	単位	配当年次	
全学共通科目	英語 I a	◆	1	全学共通科目	哲現学入門	●	2	
	英語 I b	◆	1		① 思想と文化	代理と哲	●	2
	英語 II a	◆	1		現代の心	代理の学	●	2
	英語 II b	◆	1		現代の学	代理の学	●	2
	英語 III a	◆	1		現代の学	代理の学	●	2
	英語 III b	◆	1		現代の学	代理の学	●	2
	英語 IV a	◆	1		現代の学	代理の学	●	2
	英語 IV b	◆	1		現代の学	代理の学	●	2
	フランス語 I a	◆	1		② 歴史と社会	歴史の学	●	2
	フランス語 I b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	フランス語 II a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	フランス語 II b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	フランス語 III a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	フランス語 III b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	フランス語 IV a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	フランス語 IV b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	ドイツ語 I a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	ドイツ語 I b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	ドイツ語 II a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	ドイツ語 II b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	ドイツ語 III a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	ドイツ語 III b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	ドイツ語 IV a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	ドイツ語 IV b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	スペイン語 I a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	スペイン語 I b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	スペイン語 II a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	スペイン語 II b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	スペイン語 III a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	スペイン語 III b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	スペイン語 IV a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	スペイン語 IV b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	中国語 I a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	中国語 I b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	中国語 II a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	中国語 II b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	中国語 III a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	中国語 III b	◆	1		現代史	現代史	●	2
	中国語 IV a	◆	1		現代史	現代史	●	2
	中国語 IV b	◆	1		現代史	現代史	●	2
朝鮮語 I a	◆	1	現代史	現代史	●	2		
朝鮮語 I b	◆	1	現代史	現代史	●	2		
朝鮮語 II a	◆	1	現代史	現代史	●	2		
朝鮮語 II b	◆	1	現代史	現代史	●	2		
朝鮮語 III a	◆	1	現代史	現代史	●	2		
朝鮮語 III b	◆	1	現代史	現代史	●	2		
朝鮮語 IV a	◆	1	現代史	現代史	●	2		
朝鮮語 IV b	◆	1	現代史	現代史	●	2		
日本語 I a	※	1	1	③ 健康とスポーツ	健康増進	●	2	
日本語 I b	※	1	1	④ 自然と生活	自然と生活	●	2	
日本語 II a	※	1	1	⑤ 共通特殊講義	共通特殊講義	●	2	
日本語 II b	※	1	1	⑥ キャリア形成科目	キャリア形成科目	●	2	
日本語 III a	※	1	2	キャリアデザイン	キャリアデザイン	●	2	
日本語 III b	※	1	2	プレゼンテーション	プレゼンテーション	●	2	
日本語 IV a	※	1	2	コミュニケーション	コミュニケーション	●	2	
日本語 IV b	※	1	2	論理的思考	論理的思考	●	2	
日本語 V a	※	1	2	日本語表現演習(書き方)	日本語表現演習(書き方)	●	2	
日本語 V b	※	1	2	日本語表現演習(話し方)	日本語表現演習(話し方)	●	2	
日本語 VI a	※	1	3	社会人基礎学 I	社会人基礎学 I	●	2	
日本語 VI b	※	1	3	社会人基礎学 II	社会人基礎学 II	●	2	
日本語 VI c	※	1	3	社会人基礎学 III	社会人基礎学 III	●	2	
英語 I a	◆	2	1・2・3・4					
英語 I b	◆	2	1・2・3・4					
英語 II a	◆	2	1・2・3・4					
英語 II b	◆	2	1・2・3・4					
英語 III a	◆	2	1・2・3・4					
英語 III b	◆	2	1・2・3・4					
英語 IV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 IV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 V a	◆	2	1・2・3・4					
英語 V b	◆	2	1・2・3・4					
英語 VI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 VI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 VII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 VII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 VIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 VIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 IX a	◆	2	1・2・3・4					
英語 IX b	◆	2	1・2・3・4					
英語 X a	◆	2	1・2・3・4					
英語 X b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XIV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XIV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XVI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XVI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XVII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XVII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XVIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XVIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XIX a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XIX b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XX a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XX b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXIV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXIV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXVI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXVI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXVII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXVII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXVIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXVIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXIX a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXIX b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXX a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXX b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXIV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXIV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXVI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXVI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXVII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXVII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXVIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXVIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXIX a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XXXIX b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XL a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XL b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLIV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLIV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLVI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLVI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLVII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLVII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLVIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLVIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLIX a	◆	2	1・2・3・4					
英語 XLIX b	◆	2	1・2・3・4					
英語 L a	◆	2	1・2・3・4					
英語 L b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LIV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LIV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LVI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LVI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LVII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LVII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LVIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LVIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LVIX a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LVIX b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LX a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LX b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LXI a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LXI b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LXII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LXII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LXIII a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LXIII b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LXIV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LXIV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LXV a	◆	2	1・2・3・4					
英語 LXV b	◆	2	1・2・3・4					
英語 LXVI a	◆	2	1・2・3・4					

(2019~2021年度入学生)
 全学共通科目[外国語科目・広域科目]

【卒業に必要な要件】

外国語科目

＜卒業必要単位数＞	経済学部		経営学部第1部		情報社会学部		人間科学部	
必修外国語科目	2力国語 12単位	12単位	2力国語 あるいは1力国語 8単位	10単位	2力国語 あるいは1力国語 8単位	12単位	2力国語 あるいは1力国語 8単位	8単位
選択外国語科目	—		2単位		4単位		—	

注) 外国語科目の余剰単位数は広域科目の単位として振り替えることができる。

広域科目

＜卒業必要単位数＞	経済学部	経営学部第1部	情報社会学部	人間科学部		
①思想と文化	2単位以上	12単位	14単位	12単位	2単位以上	16単位
②歴史と社会	2単位以上				2単位以上	
③健康とスポーツ	2単位以上				2単位以上	
④自然と生活	2単位以上				2単位以上	
⑤共通特殊講義						
⑥キャリア形成科目					2単位以上	
(広域科目①～⑥、 外国語科目の余剰単位数)						

注) 広域科目の余剰単位数は、オープン科目の修得単位とあわせて、全学共通科目の余剰単位として各学科の科目配当表で指定されている学科専攻科目の区分単位数に振り替えることができる。
 ※【経済学部・情報社会学部】28単位まで 【経営学部第1部・人間科学部】8単位まで
 ◇経営学部第1部：「③健康とスポーツ」は2単位を超えて履修・修得はできない。
 ◇経営学部第1部：「⑥キャリア形成科目」は4単位を上限とし、学科専攻科目への振替もできない。

(2019~2021年度入学生)
 全学共通科目[オープン科目]

分野	授業科目	単位	配当年次
全学共通科目	経済学(基礎)	2	1
	マクロ経済学(基礎)	2	1
	ミクロ経済学(基礎)	2	1
	海外実習	2	1・2・3・4
	経済政策Ⅰ	2	1・2・3・4
	経済政策Ⅱ	2	1・2・3・4
	社会政策	2	1・2・3・4
	社会保障論	2	1・2・3・4
	数理統計学入門	2	1・2・3・4
	西洋経済史	2	1・2・3・4
	世界経済史	2	1・2・3・4
	日本経済史	2	1・2・3・4
	労働経済	2	1・2・3・4
	経済学入門	4	1・2・3・4
	現代資本主義	4	1・2・3・4
	西洋経済史	2	2・3・4
	融政策特論	2	2・3・4
	金融関係論	2	2・3・4
	国財政論	2	2・3・4
	エシカル政策	2	2・3・4
	政治学	2	2・3・4
	地域経済論	2	2・3・4
	実践国際語	2	2・3・4
	英語圏文化	2	2・3・4
	金融特殊講義	2	2・3・4
	産業心理学Ⅰ	2	1・2・3・4
	産業心理学Ⅱ	2	1・2・3・4
	法入門	2	1・2・3・4
家族社会学	2	2・3・4	
経営社会学	4	2・3・4	
経営学	4	2・3・4	
経営学	4	2・3・4	
経営学	4	2・3・4	
憲法	4	2・3・4	
管理会計	4	3・4	
国際会計	4	3・4	
流通政策	4	3・4	

分野	授業科目	単位	配当年次
全学共通科目	会計基礎論Ⅰ	2	1・2・3・4
	会計基礎論Ⅱ	2	1・2・3・4
	原価計算論入門	2	1・2・3・4
	ロジカルシンキング	2	1・2・3・4
	英文会計	2	1・2・3・4
	企業経営論	2	1・2・3・4
	財務会計論	4	1・2・3・4
	簿記システム論	4	1・2・3・4
	原価計算論	4	1・2・3・4
	金融商品取引法	2	2・3・4
	経済情報分析	2	2・3・4
	社会情報学	2	2・3・4
	情報システム基礎	2	2・3・4
	ディスクロージャー制度論	2	2・3・4
	認知科学	2	2・3・4
	ヒューマンインターフェース	2	2・3・4
	マーケティング戦略論	2	2・3・4
	流通システム論	2	2・3・4
	流通情報システム	2	2・3・4
	ロジカルコミュニケーション	2	2・3・4
	ファシリテーション基礎	2	2・3・4
	ファシリテーション実践	2	2・3・4
	会計と歴史	4	2・3・4
	コンピュータ会計論	4	2・3・4
	企業ファイナンス	4	2・3・4
	対人スキル実習	2	1・2・3・4
	教育相談の理論と方法	2	2・3・4
	社会テーマデザイン論	2	2・3・4
メディア産業論	2	2・3・4	
生活習慣病と運動	2	2・3・4	
スポーツ健康コース特殊講義	2	2・3・4	
グローバル科目			
*3 American Society and Culture	2	2・3・4	
*3 Contemporary Chinese Economy	2	2・3・4	
*3 International Communication	2	2・3・4	
*3 Japan - China Relations	2	2・3・4	
*3 Japanese Politics	2	2・3・4	
*4 The Japanese Economy and Money	2	2・3・4	
*5 Economics & the Global Economy	2	2・3・4	
*3 International Commercial Law	2	2・3・4	
*3 Introduction to Japanese Business	2	2・3・4	
*3 Financial Accounting	2	2・3・4	
*3 Accounting History	2	2・3・4	
*3 Sports & Physical Education in Japan	2	2・3・4	

*1の科目は、2020年度にオープン科目対象外となった科目。
 *2の科目は、2020年度に廃止された科目。
 *3の科目は、2020年度に追加・変更された科目。
 *4の科目は、2020年度に追加・変更され、2021年度に廃止された科目。
 *5の科目は、2021年度に追加・変更された科目。
 *6の科目は、2020年度にオープン科目対象外となり、2021年度に廃止された科目。

※「経済政策」(4単位)を修得した学生は、「経済政策Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)を履修・修得することはできない。

※ グローバル科目は、すべて英語による授業。自学部から提供された科目は学科専攻、他学部から提供された科目は、すべて全学共通科目[オープン科目]の単位となる。(25頁参照)

注) オープン科目の修得単位数は、広域科目の余剰単位とあわせて、全学共通科目の余剰単位として各学科の科目配当表で指定されている学科専攻科目の区分単位数に振り替えることができる。

※【経済学部・情報社会学部】28単位まで
 【経営学部第1部・人間科学部】8単位まで

(2016~2021年度入学生)

経営学部 第2部 経営学科

区分	授業科目	単位	配当年次	区分	授業科目	単位	配当年次	区分	授業科目	単位	配当年次
学科基礎科目	英語	2	1・2・3・4	経営コース科目	経営学	2	1・2・3・4	ビジネス法コース科目	憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	英語	2	1・2・3・4		経営学	2	1・2・3・4		憲法	2	1・2・3・4
	学科基礎科目	英語	2		1・2・3・4	経営コース科目	経営学		2	1・2・3・4	ビジネス法コース科目
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
英語		2	1・2・3・4	経営学	2		1・2・3・4	憲法	2	1・2・3・4	
【他学科科目の履修について】											
2016~2018年度入学生		全学共通科目(1)、全学共通科目(2)の語学科目・キャリア科目、経営学部第1部経営学科、ビジネス法学科の科目を合計60単位まで卒業に必要な単位に含めることができる。									
2019年度以降入学生		全学共通科目(外国語科目・広域科目)、経営学部第1部経営学科、ビジネス法学科の科目を合計60単位まで卒業に必要な単位に含めることができる。									
【経営1部・2部重複履修(修得不可科目)について】											
「経営学部第1部・第2部 重複履修(修得不可科目一覧)」が50頁に記載されている。経営学部第1部の科目を履修する際には、自分の入学年度にあてはまる一覧表を予め確認すること。											
*1の科目は、2017年度に追加・変更された科目。 *6の科目は、2020年度に廃止された科目。 *2の科目は、2017年度に廃止された科目。 *7の科目は、2021年度に追加・変更された科目。 *3の科目は、2018年度に追加・変更された科目。 *8の科目は、2021年度に廃止された科目。 *4の科目は、2019年度に追加・変更された科目。 *5の科目は2019年度に追加された科目。 ただし、2016~2018年度入学生は他学科科目。											
※ 「行政法Ⅰ(行政作用法)」を修得した学生は、「行政法Ⅰ」を履修・修得することはできない。 ※ 「行政法Ⅱ(行政救済法)」を修得した学生は、「行政法Ⅱ」を履修・修得することはできない。 ※ 「行動科学実験実習Ⅰ」を修得した学生は、「行動科学実験法Ⅰ」を履修・修得することはできない。 ※ 「行動科学実験実習Ⅱ」を修得した学生は、「行動科学実験法Ⅱ」を履修・修得することはできない。 ※ 「組織調査演習Ⅰ・Ⅱ」を修得した学生は、「組織調査基礎演習」を履修・修得することはできない。 ※ 「ビジネス特殊講義(原価計算論)」を修得した学生は、「原価計算論Ⅰ・Ⅱ」を履修・修得することはできない。											

大阪経済大学 規程集

[トップページに戻る](#)[最上位](#) > [第2編 組織](#) > [第1章 教授会](#)

全学共通教育委員会に関する規程

2005年7月15日制定
2021年2月22日改正

(目的)

第1条 本学における全学共通教育を適切に推進し、各学部・学科における教育との有機的連携をはかるため、全学共通教育委員会（以下「委員会」という）を置く。

(範囲)

第2条 全学共通教育とは、基礎能力育成、総合教養教育等の分野で、全学に共通して推進する教育を指し、その科目は学則第9条に全学共通科目として定める。

(構成)

第3条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 副学長
- (2) 学長が指名する学長補佐1名
- (3) 各学部長
- (4) 教務部長

(運営)

第4条 委員会は、副学長がこれを招集し、その委員長となる。

- 2 委員長は、委員会を代表し、委員会を運営する。
- 3 副学長に支障あるときは、前条第2号および第3号に定める構成員の中から、委員会構成員の互選により選出された者が、委員長となる。
- 4 各委員は、委員長に対して委員会の開催を要望することができる。
- 5 委員長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(任期)

第5条 各委員の任期は、その職にある期間とする。

(役割)

第6条 委員会は、本学における全学共通教育のあり方および全学共通科目の改訂について審議し、学長に意見を述べるものとする。

- 2 各学部教授会は、委員会に対して、全学共通科目のあり方について意見を述べること、または提案することができる。委員会は各学部からの意見または提案について審議する。
- 3 全学共通科目の任用人事は、委員会における審議を経て、学長の決定に基づいて、各学部教授会で候補者の選考を行う。

(全学共通教育協議会)

第7条 委員会は、前条の審議事項を検討するため全学共通教育協議会（以下「協議会」という）を置く。

- 2 協議会の運営について必要な事項は別に定める。

(自己点検・自己評価)

第8条 委員会は、目的を達成するため自己点検・自己評価を行う。委員会にて次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 委員会の自己点検・自己評価の実施体制、実施項目、実施内容および実施方法に関すること

(2) 委員会の自己点検・自己評価の実施およびその結果の公表に関すること

(3) 委員会の自己点検・自己評価の結果に基づく改善策に関すること

(4) 委員会のその他自己点検・自己評価に関して必要な事項に関すること

(事務)

第9条 委員会の事務は教務部が担当する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、全学共通教育委員会および教授会の意見を聴いて、学長が行う。

附 則

1. この規程は、2005年7月15日から施行する。
2. この規程は、2016年7月29日に改正し、同日から施行する。
3. この規程は、2018年8月7日に改正し、2018年5月1日に遡って施行する。
4. この規定は、2021年2月22日に改正し、同日から実施する。

大阪経済大学 規程集

[トップページに戻る](#)[最上位](#) > [第2編 組織](#) > [第1章 教授会](#)

全学共通教育委員会に関する規程

2005年7月15日制定
2021年2月22日改正

(目的)

第1条 本学における全学共通教育を適切に推進し、各学部・学科における教育との有機的連携をはかるため、全学共通教育委員会（以下「委員会」という）を置く。

(範囲)

第2条 全学共通教育とは、基礎能力育成、総合教養教育等の分野で、全学に共通して推進する教育を指し、その科目は学則第9条に全学共通科目として定める。

(構成)

第3条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 副学長
- (2) 学長が指名する学長補佐1名
- (3) 各学部長
- (4) 教務部長

(運営)

第4条 委員会は、副学長がこれを招集し、その委員長となる。

- 2 委員長は、委員会を代表し、委員会を運営する。
- 3 副学長に支障あるときは、前条第2号および第3号に定める構成員の中から、委員会構成員の互選により選出された者が、委員長となる。
- 4 各委員は、委員長に対して委員会の開催を要望することができる。
- 5 委員長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者を出席させることができる。

(任期)

第5条 各委員の任期は、その職にある期間とする。

(役割)

第6条 委員会は、本学における全学共通教育のあり方および全学共通科目の改訂について審議し、学長に意見を述べるものとする。

- 2 各学部教授会は、委員会に対して、全学共通科目のあり方について意見を述べること、または提案することができる。委員会は各学部からの意見または提案について審議する。
- 3 全学共通科目の任用人事は、委員会における審議を経て、学長の決定に基づいて、各学部教授会で候補者の選考を行う。

(全学共通教育協議会)

第7条 委員会は、前条の審議事項を検討するため全学共通教育協議会（以下「協議会」という）を置く。

- 2 協議会の運営について必要な事項は別に定める。

(自己点検・自己評価)

第8条 委員会は、目的を達成するため自己点検・自己評価を行う。委員会にて次の各号に掲げる事項を審議する。

(1) 委員会の自己点検・自己評価の実施体制、実施項目、実施内容および実施方法に関すること

(2) 委員会の自己点検・自己評価の実施およびその結果の公表に関すること

(3) 委員会の自己点検・自己評価の結果に基づく改善策に関すること

(4) 委員会のその他自己点検・自己評価に関して必要な事項に関すること

(事務)

第9条 委員会の事務は教務部が担当する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、全学共通教育委員会および教授会の意見を聴いて、学長が行う。

附 則

1. この規程は、2005年7月15日から施行する。
2. この規程は、2016年7月29日に改正し、同日から施行する。
3. この規程は、2018年8月7日に改正し、2018年5月1日に遡って施行する。
4. この規定は、2021年2月22日に改正し、同日から実施する。



本科目の目的

データサイエンスやAIの現状や役割の理解 / データを活用する際の留意事項について理解 /
データ収集・加工・分析をふまえて自身の考えを可視化

プログラム対象科目と修了要件

【対象科目】「共通特殊講義(データサイエンス概論)(2単位)」※令和4年度以降、「データサイエンス概論」(名称変更)として開講。

【修了要件】対象科目から2単位を修得すること。

今後の計画

令和3年	➢ パイロットケースとして「共通特殊講義(データサイエンス概論)」を開講。
令和4年	➢ 「データサイエンス概論」(名称変更)として開講。全学共通科目に「データサイエンスと数理」区分を新設。
令和5年～	➢ 開講コマ数の充実を図り、学内広報等を通じて、履修者数を増加させていく。 ➢ プログラムを改善・進化させるための特化した体制設置の検討を進める。

特色

#1. 高校数学の知識は不要

数理的な理解よりもデータやAIによる意思決定の背後にある科学を学び、現代に必須の教養を身に付ける。

#2. アクティブラーニングの授業方法を採用

学部の異なる学生同士で意見や考えを共有したり、自分で手を動かしてデータを加工・分析・可視化することを重視。

#3. データサイエンスの全体像を把握

全学共通科目に位置付けられているが、学んだ内容を各学部の専門分野の学びに活かしていくことができる。



補足説明資料(自己点検・評価体制)

全学共通科目改編による「データサイエンスと数理」区分の新設

令和4年度から全学共通科目に「データサイエンスと数理」区分を新設し、「データサイエンス概論」を配置した。

区分名称	科目例
外国語科目	英語Ⅰ、英語Ⅱ、ビジネス英語Ⅰ、ビジネス英語Ⅱ、TOEICⅠ、TOEICⅡ
思想と文化	哲学入門、心理学入門、芸術学入門、倫理学入門、文学入門
歴史と社会	歴史学入門、経営学入門、社会学入門、大阪の経済と文化
健康とスポーツ	スポーツ方法学、スポーツの理論、健康増進の理論
自然と生活	地理学入門、数学入門、物理学入門、化学入門、生物学入門
データサイエンスと数理	データサイエンス概論、統計学入門、現代と統計
キャリア形成科目	キャリアデザイン、インターンシップ、論理的思考入門
共通特殊講義	共通特殊講義(公務員・経済学検定試験基礎)

自己点検・評価体制

各学部のデータサイエンスやAIを専門とする教員と「データサイエンス概論」と各学部学科専攻科目の接続に関して、意見交換等を行い、連携していく。

